



京都 YWCA

7 2013

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

『いま、なぜ 憲法改正 なの？ 自民党憲法改正草案を読み解く』

6月7日、京都 YWCA ホールにて、京都 YWCA 平和委員会主催の学習会『いま、なぜ憲法改正なの？自民党憲法改正草案を読み解く』が開催された。講師の中村和雄弁護士から、現政権与党である自民党が野党時代に作成した「日本国憲法改正草案」（以下「草案」）が扱おうとする集団的自衛権や「緊急事態」条項の問題点、憲法 96 条改正のねらいや天皇の機能強化などが指摘された。ここでは、この学習会で指摘された「立憲主義の否定」に触れ、民主主義の担い手として私たちが果たすべき役割について述べる。



講師の中村和雄弁護士

「立憲主義の否定」という問題点

法律と憲法の決定的な違いは、前者が国民に義務を与えて縛るものであるのに対し、後者は国家権力を制限するものであるということだ。憲法が立脚するこの考え方を立憲主義という。憲法第 13 条が規定する個人の人権を保障するため、現行憲法はこの立憲主義に基づいて機能してきた。

草案の最大の問題点はこの立憲主義が否定されることである。草案では、国民に憲法尊重擁護義務が課され（第 102 条）、数多くの義務が記述されている。一方、天皇や摂政*に対する同義務は免除されている。（*天皇の名でその国事に関する行為を行う人）

また、「公共の福祉」が草案では「公益及び公の秩序」となっていることにも問題がある。「公共の福祉」とは憲法において権利が保障されている個人が、それぞれの権利をめぐって衝突することを防ぐための調整として使用されるものだ。それが「公の」となると、意味合いが大きく変化する。例えば、原発に反対するデモが「公益及び公の秩序」に反するとして規制されるということもありうる。

民主主義を実現する一員として

現行憲法は、「新しい人権」（プライバシー権、環境権など）をも第 13 条を根拠に包摂できる優れた規定を持つ。改憲論者は現行憲法を改正すべき理由として憲法が「押し付け」であることを主張するが、当時国民の圧倒的支持を得たことからそれは間違いである。さらに、たとえ「押し付け」でも、良いものならば守り発展させていくことこそが大切なはずだ。

民主主義とは多数決と同義ではない。民主主義においては、少数者の権利を決して侵すことができないからである。また国民一人ひとりが権利を行使していくことを通して実現されていくのが民主主義である。参議院議員総選挙を控えた今こそ、国民一人ひとりが憲法で約束されている自らの権利について学び、その権利を行使して団結・連帯しながら変革を担っていくことが必要なのではないのだろうか。

(堀部 碧)

・京都YWCA90年の歩み・

働く女性のために (1951 ~ 1960)

・1951年から、零細企業の孤独の中で黙々と働く中学新卒生のための「働く少女のための生活教室」を開始。勉学向上の機会や生き方の可能性、交流の場を提供する目的で、会員の有志がそれぞれの特技を生かして奉仕的に携わった。その後、西陣柏野グループが誕生し西陣地域に広がった。



ミシンをならう西陣の少女達

- ・1953年に、ホステル事業を再開し、1955年には、ニュース「京都YWCA」を月刊紙として発行。
- ・1959年には、「働く女性の生活講座」や有識婦人のパネル協議会を開催した。

大きく動く (1961 ~ 1965)

- ・1961年、西陣労働センター設立への動きと会館増築募金活動を始めた。また、第39回の年会は西陣織物会館で実施した。西陣グループの人たちによる草餅やお茶の接待や、西陣勤労少女委員会の紙芝居形式の事業報告があり、地域的色彩ゆたかなものとなった。
- ・1964年には、第42回年会とともに、京都YWCA創立40周年(1962)を祝い、40年史の「古都に咲いて40年」を発行。
- ・憲法を「学ぶ」ことから、「生活の中に活かす」ために、月刊ニュースに入れるキットの作成やプログラム実施などに取り組んだ。

(編集部)

📖 オススメです!

生きている兵隊 一(伏字復刻版)

石川達三 中公文庫
定価 571円 + 税



「生きている兵隊」は、『中央公論』(昭和13年3月号)に発表された。しかし国に南京攻略戦を舞台にした"反戦的"な小説であると判断されたため、即日発売禁止となる。終戦後の昭和20年12月、再出版された。

この小説は、淡々と兵隊たちの心を表現し続けている。医学生、農家の次男坊、小学校教師など、それぞれの経歴や価値観を持った人間たちが個性に蓋をし、兵隊としての価値観に染まっていく様子と、その反面やはり見え隠れしてしまう、"自身"と"兵隊"との間の揺れが印象的だ。また、ある兵が「敵国の戦死者は弔ってやらぬ」と発言する従軍僧に失望する場面では、心に平和を抱く者さえも戦中の環境に染まるのかと、私もその兵と同様に危機を感じた。「戦争」がひとつの現象ではなく、個性や思想ある人間たちによって成り立っているということに気づかされる本である。

(伊原千晶)

バザーへのご協力、 ありがとうございました!

ひと足早い梅雨入りに、はらはらしながら迎えた6月1日。天気は何とか持ちこたえて、京都YWCA90周年「あじさいバザール」はお手伝いを含め500人を超える来場者を迎えることができました。ボランティアのみなさん、来場者のみなさん、ご寄付・ご寄贈くださったみなさん、ありがとうございました。



キッズコーナーにて

入場料収入総額

(東日本大震災被災者支援活動への寄付): 53,700円

バザー協力者一覧(敬称略)

(株)ユニティー、(有)飯室商店、(株)山田松香木店、(株)ティ・エム・エス、(株)マイチケット、平野歯科医院、よつ葉ホームデリバリー西京都、(有)テララ貸物店、オ・グルニエ・ドール、ヴォーリス建築事務所、(株)オニザキコーポレーション、(株)伊那食品工業、松本弘子、松田弥寿子、高橋正子、池上信子、山本千鶴、北垣景子、清水義、浅野久代、山本知恵、有田佳子、篠田茜

京都YWCAにはこんな素敵な講師がいます。 いっしょに学びませんか?



英会話講師マイケル・ヤップさん
(フィリピン出身)

マイク先生に聞きました!

●いつから教えておられますか?

2000年からです。友人がこの仕事を紹介してくれたのです。教授法の訓練を受けていなかった最初のうちは不安でしたが、僕を勇気づけてくれたのは、最初の生徒さんが覚えてた言葉で自分の考えを伝えることを手伝った経験でした。

●日本人が英語を学ぶ上での障害は?

生徒さんにもよりますが、英語を学ぼうとする理由にもよります。共通するのは、教室外で英語を使う機会が少ないことです。

僕は、生徒さんが語学として学ぶだけでなく、英語を自由に使ってそれが役立つものであることを実感してもらうことを心がけています。学んだ言葉で自己表現できることが目標です。

●そのためにされていることは?

まず生徒さんが知っていることからゆっくと始めます。僕の役割は、間違いを指摘することではなく、生徒さんを促し勇気づけることです。

シリーズ『理不尽な世界であきらめず楽しく生きる』①

仙台で被災して

パレスチナ・オリーブ 皆川万葉

仙台・宮城は、地震・津波・原発事故のトリプルで災害を受け、複雑な状況に置かれています。いまま原発事故だけでなく、地震・津波の被害からの回復もどうにも先行きが見えず、地元の人が誰も望まない形で、見た目の復旧・復興が進んでいます。そして、アルコール依存、精神疾患、DV、児童虐待の増加などが報道されています。

私は新潟で生まれ育ちましたが、20年前、大学進学で仙台にきました。1998年から、パレスチナ地域のオリーブオイルなどをフェアトレードで輸入して全国に販売、京都YWCAでも扱って頂いています。しかし「非日常が日常になっている暮らし」のパレスチナで感じていたことが自分たちに起きるとは、考えてみたこともありませんでした。

震災が起き、電気・ガスなどのライフライン、電話、交通機関とあらゆるものがストップし、私たちは生野菜をかじって過ごしていました。

家族離散を経て甲府にて新生活

しかし、ラジオで原発が爆発したことを知り、3月14日朝、私の車の運転で山形空港へ行き、当時小学校1年生だった息子は関西へ父子避難しました（仙台～山形～新潟が当時、「外」に出る唯一の道であり、ガソリンはたまたま満タンでした）。私は、山形で食料や薬

などの物資を調達して近所の避難所、つまり息子の通っていた小学校に運びました。しかし、これが2年の別れとなるとは思ってもいませんでした。その後、父親は東京勤務のため、息子は京都での単身疎開を経て2011年10月に山梨県甲府市に移住しました。これまで縁のなかった場所です。京都では里親さんを始め、京都YWCAの皆さまほか多くの方にお世話になりました。私はこの1年以上、隔週で仙台から甲府に通う生活でしたが、さすがに心身ともに限界を感じ、この4月に仕事場ごと甲府に引越しました。

仙台は被災しながらも、周囲の被害があまりに甚大なため「私たちなんて被災者に入らない」と、被災者兼支援者で走り回っている人がたくさんいます。次回から、仙台での活動について書いていきます。



甲府の小学校での運動会

京都YWCAでは6月25日から8月末まで、インターン生を迎えます。自己紹介をお願いします。

こんにちは、グザビエ・ブラウンと申します。私は人類生物学専攻のスタンフォード大学3年生で、小児科医志望です。スタンフォード日米学生組合の共同議長を務めています。趣味はバレーや演劇です。また、子どもが大好きです。日本人学生のホスト役を2年間したことや、アジア各地から来た大学生に英語とアメリカ文化を教えるサマープログラムのコーディネータ経験があります。私は荣誉ある Regalettes 奨学生として、誠実さや思いやりを実践する手本になればと思っています。

13歳の時に日本の漫画を読んで日本文化に出会い、ここ2年間日本語を勉強しています。日本人の親切さや寛大さがすっかり好きになり、日本に住むことを誇らしく思います。私の人生の目標は世界を良くすることに貢献することですが、YWCAで働くことがそれに役立つと信じています。インターン生として働くことで京都の人々に恩返しでき、人々に喜んでいただければうれしいです。



今後のプログラム

講演会「パレスチナ問題とキリスト教」

日 時：2013年7月21日(日) 14:00～16:00
 講 師：村山盛忠さん(日本基督教団大阪生野協会協力牧師)
 参加費：800円
 主 催：京都YWCA ブクラ

「日韓の若者が創るピースプログラム」参加者募集!

韓国スウォンからユースが京都YWCAにやってきます。
 3泊4日間、寝食をともにしながら原子力発電やエネルギーについて考える時間を持ち、交流を深めます。

日 時：2013年7月26日(金)～29日(月)
 場 所：京都YWCA、京都市内
 参加費：13,000円/人(宿泊費、食費、プログラム費、保険代、移動費込み)

対 象：中学生～30歳までのユース
 通 訊：有
 事前準備会：7月20日(土) 13:00～17:00
 定 員：15名(先着順)

※原則参加者宅に、韓国ユースのホームステイをお願いする予定ですが、ご家庭によって受入れがご無理な場合はご相談ください。

各プログラムの詳細は事務所に問い合わせ下さい。

福島の小中学生対象「京都で7泊8日 夏のリフレッシュプログラム！」

福島県近郊に在住の小中学生を対象に、夏休みの保養プログラムを実施します。保養プログラムの実施は2011年3月11日の東日本大震災以降、これで5回目となります。プログラムを担うボランティアやホストファミリーを募集しています。

また、プログラムのための寄付も受け付けています。

日 時：2013年8月2日(金)～9日(金)

小学生のための夏休みキッズデイアウト in ガジュマルの樹

京都YWCA子どもの居場所「ガジュマルの樹」では、キャンプに行ったり、お出かけしたり、楽しい音楽や知らない国のお話を聞いたり・・・お楽しみたくさんのキッズデイアウトを開催します。

日 時：①2013年8月4日(日)～6日(火) 2泊3日
 ②2013年8月7日(水)・8日(木) 2日間
 ③2013年8月19日(月)～23日(金) 5日間
 ②、③は毎回10:00～17:00

内 容：①キャンプ
 ②③ハイキング、夏休みの宿題、自由遊び、室内デイプログラムなど

※①②は福島の小中学生と一緒にのプログラムです。

対 象：小学1～6年生

参加費：①13,000円 ②3,000円 ③7,500円

定 員：①②15名 ③20名 ※先着順

ご寄付ありがとうございました。

2013年4月1日から2013年5月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

*一般寄付

高橋正子、勝山久仁子、門間淳子

*各指定寄付

90周年みらい募金：運営委員有志、坪野えり子、宮武美知子
 東日本大震災被災者支援：木戸さやか、鈴木のり子、山田邦子
 APT：日本キリスト教団京都上賀茂教会、本田次男、神門佐千子、
 竹内昌代、池上信子、織田雪江、安藤いづみ、上原有美
 国際委員会：宮武美知子、一色光世、高橋正子、池上信子、
 光田敦子

平和委員会：吉村千恵、平和委員会有志

活動グループ連絡会：ビーンズ、ミモザ

スリフトショップ委員会：スリフトショップ委員会有志

賛助員：清水 義、岡 昭男、森 律子、中川愛子、吉田 繁、
 太田昭子、志賀朱美、森 明子、長谷邦彦、猿山由美子、
 中村和雄、桙山悦子、早川久仁子、狭間紀美子、中地重信、
 佐伯昌和、中村美智子、松永公子、浅野久代、中井和子、
 北村保子、福島瑠美子、井原圭子、匿名1名

5月・6月/理事会報告

- スウォンYWCAとのユースPEACEプログラム：7/26(金)～29(月)
- こどもまつり：8/3(土) 13:00～16:00
- 留学生援助資金からの助成で留学生を「ひろしまを考える旅」に派遣する。
- 夏の福島キッズ・保養プログラムの参加者およびボランティア募集開始。
 プログラム：8/2(金)～8/9(金)
- 90周年記念イベント「サマーセール&思い出会」
 8/31(土) 14:00～16:00(I部)、17:00～19:00(II部)
- 90周年記念「お祝い会」：9/28(土) 13:30～16:00
 <報告>
- 「わかちあいプロジェクト」を通じてタイの難民キャンプへ衣類寄付。
- 2013年あじさいバザール：6/1(土) 10:00～15:00
 入場者：430名、働き人110名 で無事に終了。
- 2012年度決算承認。

KYOTO YWCA No.515

2013年7月号(7月1日発行)

発行人 上村愈巳子

発行所 一般財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通出水上ル

電 話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

U R L http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (一財)京都YWCA

定 価 50円